

環境省 持続可能な開発目標（SDGs）活用した  
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業  
＜令和元年度 事業計画＞

# みずしま滞在型環境学習で 新たな“まちのにぎわい”を創ろう

公益財団法人 水島地域環境再生財団

2019.5.10

# ①取組で目指す地域像

## 2022年度末 地域の状態

- 水島での環境学習は、“地域の生活丸ごと”としてとらえ、多様な主体との交流や、地元のを食べる、買う、使うといった経験を通じて、多面的で総合的なものの見方・価値観や、課題を発見し、解決のための方法を自分で考える力を持った、持続可能な社会づくりに貢献する人材を育成することできる、「滞在して環境学習を学びに行く価値がある地域」というブランディングができています。
- 受入の基盤整備を議論する協働主体の掘り起こしを進め、活用されていない土地や建物などを活用して、若者の滞在型の学びの受け入れ体制を整備することで他地域から人が集まる地域となり、異文化交流を通じて、地域が活性化している。流域全体に若者が学びに訪れ、流域で活動する団体が活性化している。
- 地域に暮らす若者が、地域づくりや地域活性化に関わる機会が増えることで、地域への愛着をはぐくみ、将来地元で暮らし、働きたいと考える若者が増えている。
- 水島独自の持続可能な街づくりが進んでおり、その中心に地元の若者たちが居る。

## 2019年度末 地域の状態

- 滞在型モデルプログラム及び小学校向け出前教室の実績を積み重ねることで、SDGsに向けた学びのできる地域としての認識が広まっている。
- 本事業に関わるステークホルダーが抱える課題について議論する場を提供することで、2022年度末の将来像とその実現のためのアプローチについて共通認識となっている。
- 地域づくりの議論が進み、目に見える形で拠点整備が進むことにより、参加した地域住民や若者に地域づくりの担い手としての意識が醸成されている。

目指す未来  
からの逆算

## 2018年度末 地域の状態

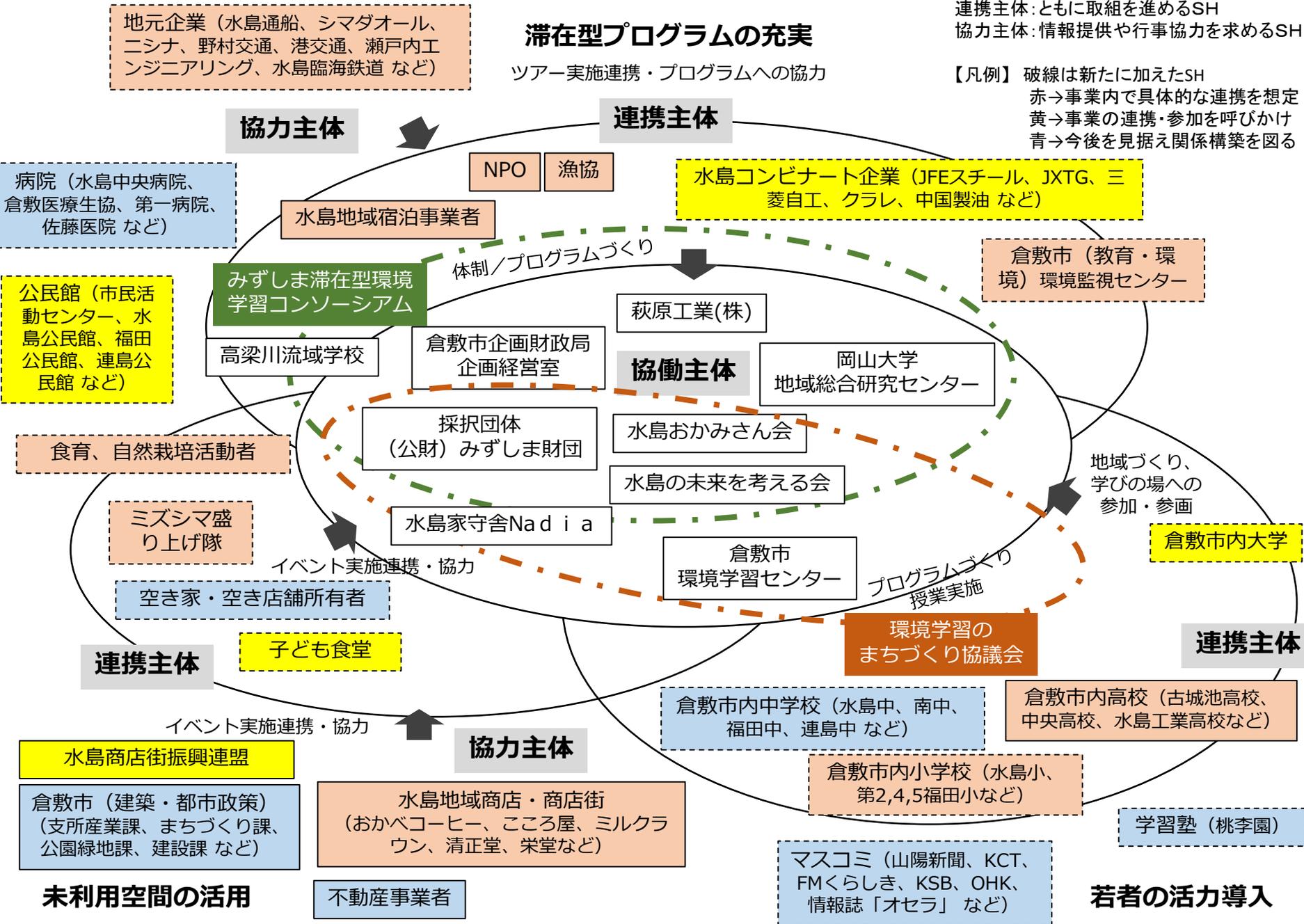
- モデルツアープログラム（2回）の実施を通じて検証を行い、滞在型の学びが、「体験の機会」や、「地域の巻き込み」に有効であることを確認できた。
- 商店街関係者に、水島地域が多様な人を受け入れることのできる地域と考えてもらうための下地を作ることができた。
- 水島地域内の宿泊施設のリストを作成した。拠点の一つとなりうる宿泊施設とつながり、実際にモデルツアーで活用することで、学びによる新たな客層の可能性を感じてもらうことができた。
- 水島地域唯一の高校である倉敷古城池高校生の地域への関心を高めることができた。

目指す未来  
からの逆算

## ② 運営体制の整理（ステークホルダーとの関係性）

【定義】  
 協働主体：事業全体を一緒に考えるSH  
 連携主体：ともに取組を進めるSH  
 協力主体：情報提供や行事協力を求めるSH

【凡例】 破線は新たに加えたSH  
 赤→事業内で具体的な連携を想定  
 黄→事業の連携・参加を呼びかけ  
 青→今後を見据え関係構築を図る



### ③ 2019年度末までの到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
<p>【取組課題①】 ・「水島の学び」体験の機会に限られる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初年度に整理した学びのプログラムに基づき、環境学習を“地域の生活丸ごと”としてとらえる滞在型のツアーや大学の研修受け入れを重ねる。その中で水島の公害経験に基づき、様々な立場の人と交流を深め、議論と実践を通じて、多面的な思考や、持続可能な社会の在り方を学ぶことができる地域という認識が広がっている。</li> <li>・ 小学校向け出前授業のプログラムが整理されることで、地元の小学校高学年の児童が、社会の授業で持続可能な社会について学ぶ機会ができています。</li> <li>・ 地域の小・中・高校での出前授業を地域の人々が講師となって実施することで、子どもたちや学校の先生が、地域の人たちとの関係性を作ることができ、地域づくりに参加するための門戸を開くことができる。</li> </ul>
<p>【取組課題②】 ・ 商店街など地域活力が低下している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の活用されていない土地や建物の活用を目指して、専門家による講座や地域資源の現状調査、具体的な活用法について考えるワークショップを行う水島学講座（空間整備編）を地域住民や大学生、高校生向けに開催する。ワークショップの内容を具現化する「倉敷版パーキングディ」を開催することで、若者が関わることによる地域の活性化を住民が実感することができる。</li> <li>・ 地域づくりをテーマに、市民・企業・行政など様々な主体が集まり、ざっくばらんに議論をする「地域づくりサロン（仮）」が定着することで、地域と企業や、地域住民同士が課題を共有し、連携を深めることができる。</li> <li>・ 滞在型環境学習の実践や活用されていない土地や建物の整備等を通じて、リノベーションした店主や、民宿等の宿泊関連に携わる協力者が増え、より地域全体としての魅力づくりの議論が進んでいる。</li> </ul>
<p>【取組課題③】 ・ 若者の地域定着率が上がらない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の公共空間を活用して、人々が憩える空間を創出することを目指した水島学講座及び、「倉敷版パーキングディ」の実施を通じて、若者が実践的に地域の課題を知るとともに、社会貢献の成果を実感することで、地域への愛着を育むことにつながる。</li> <li>・ 地域の若者が、「学び」を目的に来水する人との交流や異文化理解についての経験を積み、地元の公共空間を活かしたまちづくりに関わることで、地域への関心が高まっている。</li> <li>・ 地域内の高校に通う高校生対象にアンケート調査を実施する。調査結果をもとに、若者へのアプローチ方法等を探る手掛かりが得られている</li> </ul>

# ④ 課題解決に向けたスケジュール（平成31年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定		第3回連絡会	ステークホルダーとの進捗状況の共有（勉強会）	ステークホルダーとの進捗状況の共有（勉強会）		ステークホルダーとの進捗状況の共有（勉強会）		ステークホルダーとの進捗状況の共有（勉強会）		第4回連絡会	全国報告会	報告書の作成
【取組課題①】 「水島の学び」体験の機会が限られる		小学校に出前講座の活用を働きかける 大学に研修の働きかけ 5/29ライデン大学受け入れ	小学校出前講座の受け入れ（適宜） 大学の研修受け入れ（適宜）	水島小学校 出前授業	水島エコツアー実施（まちづくり編）			水島エコツアー実施（海編）	水島小学校 出前授業			
【取組課題②】 商店街など地域活力が低下している	水島エコツアーや研修で地域の宿泊施設を活用		「地域づくりサロン（仮）」①	「地域づくりサロン（仮）」②	「地域づくりサロン（仮）」③	「地域づくりサロン（仮）」④	「地域づくりサロン（仮）」⑤	11/8シンポジウム				
【取組課題③】 若者の地域定着率が上がらない		5/11水島学講座①（ミーティング） 高校生向けアンケートの設計		水島学講座②（ミーティング） 高校生対象「水島地域の環境・生活調査」の発送	8/29-30水島学講座③（まちづくりWS）	9/27水島学講座④（まとめ） 分析・とりまとめ						

## ⑤ 2カ年事業計画（H30.8）からの変更点

計画の変更点（項目）	変更した理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取り組みアイデアの変更（勉強会の開催）</li> </ul>	<p>・ 昨年度中間評価での「団体の取り組み意識が地域より先行しているのでは？」といった意見があった。また、「世界一の環境学習のまち・みずしま」という共通の将来像はあるが、具体的なビジョンや、それを実現するためのステップについて、地域のステークホルダー全てと同じテーブルに着けていない。そこで、地域への問題意識や将来像を、ステークホルダーと共有することを目的に、自由に意見交換できる場（サロン形式）を開催することとした。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取組課題へのアプローチの見直し（取組課題②）</li> </ul>	<p>・ 当初、空き家、空き店舗を活用して、滞在型の学びを受け入れる体制づくりを目指していたが、地域の関係者へのヒアリングなどから、その建築の構造上（1階が店舗、2階が住居など）、賃貸がしにくいなどの課題があることが明らかとなってきた。一方、既存の宿泊施設へのヒアリング等を通じ、研修で活用できる宿泊や集会施設との関係ができた。また、取組を進める中で、商店街に位置する未利用地（スーパー跡地）の活用についての相談が入った。これらを勘案し、空き家、空き店舗については、引き続き情報収集により可能性を探りつつも、未利用地を使った商店街等との協働による学びと賑わいづくりを試行することとした。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取り組みアイデアの変更（取組課題②③）</li> </ul>	<p>・ 2カ年事業計画では、高校生等と商店街関係者による地域資源を活かした商品開発を考えていたが、上記の事業見直しを踏まえ、またより広い関係者が関わる中で地域を巻き込むことが求められていることを勘案し、未利用地の活用を考えるワークショップ（高校生、商店街や地域住民、エコツアー参加者等を対象とする）にテーマ変更した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営体制の整理（ステークホルダーの拡大）</li> </ul>	<p>・ 昨年度、活動を進めていく中で、当初想定をしていた以外に、様々な分野のステークホルダー（公民館、地元小・中・高校、地域で活動する団体など）が見えてきた。今後、活動を進めていくうえで、これらの分野にも連携を広げていくことが重要であると考え、アプローチするステークホルダーを追加することとした。</p>

## ⑥ その他補足事項

### ■ 事業を進める上での課題やリスクとその対策

- 行政（倉敷市）と政策協働についての文書等による確認ができておらず、担当者の異動等により、関わり方が変わってくる可能性がある。また、学校関係者も、本事業に積極的にかかわっていた先生が異動になると、一から関係性を構築しなおさなければならない可能性がある。倉敷市や学校の事業の中に、本取り組みを位置づけることで、継続的にかかわる体制を構築できるよう働きかけたい。
- 本事業を経済的に持続可能なものにするには、重要な課題である。そのためには、滞在型の学びの受け入れ費用に加えて、水島コンビナート企業をはじめ、地元企業や地元団体などから、協賛金などの形で財政的にも支援を得られる仕組みを作る必要があると考えられる。水島地域では、平成28年度に倉敷市や地元経済界、商店街や地域の活動団体などが、協働で学びをテーマに地域づくりに取り組むことを目的とした「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」を立ち上げており、本事業の重要なステークホルダーとなっている。今後、財政面での持続可能性の確立を目指して、コンソーシアムと一緒に仕組みづくりに取り組んでいきたい。

### ■ その他、留意事項などがあればお書きください

- 別事業との連動と切り分けをきちんと行う。
- 各主体のメリットと、責任範囲をきっちり整理しながら、取り組む。
- 水島地域では、本事業の他にも地域の活性化や、若者のまちづくりへの参画を目的に、賑わいの場・集いの場の創出他のため地元大学と連携した公園整備プロジェクトや、賑わいづくりのための「臨鉄ガーデン」、 「イス1GP」、 「夕暮れガーデン」といった様々な取組が行われている。これらの取り組みと連携をとってステークホルダーを拡大し、横のつながり、関係性をつくっていくことで、目指す将来像を実現していきたい。